

うちの主人に限ってそんなことは・・・？

アンディ美湖 （訳：タエコ・マツダ・シュウ）

恐ろしい世の中になりました。たくさんの男性の話を聞いて思ったのですが、状況がそろそろと大多数の男性は誘惑に負けてしまうということです。そうです。それは悲しいことですが、イエス様を愛し、自分の妻を愛している男性達でさえも例外ではないのです。悔恨の念にうなだれて自分の過ちを語る善良な男性達を、私はこの目で見てきました。

また、自分の夫もいつか「あのような男」になってしまうのではないかとおびえている奥様方にも会いました。口には出して言わなくても、心の奥底では、自分の夫が誘惑という崖っぷちから足を踏み外してしまうのではないかと不安に思っているのです。

恐ろしいことに、その不吉な崖はここ数年ですっと身近なものとなってきています。ある宗派の調査によると、その牧師達の25%がポルノに溺れてしまっているということです。「葛藤している」ではなく「溺れている」です。この調査は数年前に行われたものですが、その状況は悪くなる一方です。性的な情報がこんなに容易に手に入るようになった現代、どんなに意志の強い男性でさえも、一度の迷いで妥協に陥る可能性があるのです。本当に簡単なことなのです。

始めはちょっとした好奇心からだったと言う方も多いでしょう。それが、もと火となるのです。その火は燃料を欲しがります。男性は選択肢の嵐に巻き込まれ、そのいくつかを嫌悪する一方で、その他のものには「害のないただの余興」と、もっともらしい理由を付けたりします。こうして妥協を重ねるうちに、小さな炎が徐々に広がり、大火事となっていきます。傷ついたり、寂しかったり、ストレスが溜まっている時など、男性というものは、まさにコンピューターにつながれた悪の餌食なのです。

人を希望や召命から引き離すーこれは、敵が昔からよく使っている策略です。旧約聖書でイスラエルが隣国の偶像に惹きつけられていったという話を聞くと私達は困惑しますが、この現象は実はかなり簡単なことです。偶像礼拝は性的な儀式を伴ったものだったのです。セックスの効力は昔も今も同じです。そしてそれは、

男性が自分は人間として十分に正当なものと認められていないのではと感じる時に、特にその効力を増すのです。鏡を見る時、映し出された自分の内に夫は見ます(妻の方も同じようなことを自分自身の内に見ているものなのですが):失敗者、臆病者、大きい鼻、痩せこけた胸、父親にかまってもらえない子、母親に非難されっぱなしの子。そこで、男性はこの恐れを癒そうと妥協に走るのですが、敵はその男性への呼び名をまたもう一つリストに付け加えます。そのささやき声は、はっきりと聞こえてくるのです。「汚らわしい奴」と。

こうして男性は恥と良心とのとがめにさいなまれ、さらなる妥協へと陥っていきます。そして、希望や召命、真に愛する人からどんどんと遠ざかり、このらせん階段を落ちていくのです。

すべきではないこと

夫の忌むべき行為を発見した妻は確かに裏切られた気持ちになり屈辱を感じ、怒り狂いもするでしょう。夫が勇気をふりしぼって本当のことを語ろうとする時、彼の恐れは二重にあります。一つは、自分の弱さを認めることに対する恐れ。そして、もう一つは自分の妻を傷つけることへの恐れです。しかし、ある一人の奥さんは怒りがこみ上げてくる一方で、あることに気がつきました。それは、「自分のしたことを本当に恥ずかしく思っている夫の気持ちと、私を信じて頼ってきたその心」でした。

夫が妻に胸の内を打ち明ける時、夫の方は大きな重荷が降ろせたような気持ちになります。それと同時に妻の方は、非常に重い荷物が肩の上に落とされたような気持ちになるのです。メンズミニストリーの専門家スコット・オハ氏はそれを奇妙な逆転と言っています。:打ち明ける側の夫は「自分は誠実な人間になろうとしているのだ」と思っているのですが、妻の方は、「裏切られた」と思いますし、「これほど妻をいとおしいと思ったことはない」と夫が思っている、妻の方は「これほど愛されていないと思ったことはない」と思うからなのです。

傷つき恐れおののく妻が最初に走る傾向は、夫の行動をコントロールしようとすることです。何と言っても、彼女の世界がおびやかされたのです。結婚生活、家庭、子供の将来すべてが危険にさらされているのです。妻は口やかましくなり、請求書、郵便物、電話、コンピューターの記録をチェックしはじめましょう。また、夫が旅行中だったり、帰りが遅かったり、ベッドの中にいないとなると、不安にかられるのです。しかし、妻がコントロールしようとするほど、夫

は悪循環に巻き込まれていきます。昔からの共依存のからくりにはまって、それに手を貸していることに気がつかないでいるのです。メロディ・ビーティは「共依存症 —— いつも他人に振りまわされる人たち」で次のように言っています。

「時に私達は、自分を守ろうとする行為によって、かえって傷つけられている。それは自己破壊的になる。多くの共依存者はかろうじて生き延びているといった状態で、ほとんどの共依存者が必要を満たされていない状態にある。カウンセラーであるスコット・イグレストンはこう語っている。『共依存とは、必要を絶対満たせない方法で、満たそうとすることである。』と。」

共依存の妻は、物事に対して反応しがちです。反応しすぎかと思えば、反応しなさすぎだったりもします。でも、めったに自分から先には行動しないのです。これは、三つの逆効果の対応メカニズムを生み出します。まず一つめは「無視」— 問題ではないふりをしていますが、心の奥底では害毒が回っているのです。二つめは「引っ込み」ですが、その傷はあなたを絶望へと引きずっていきます。三つめは「干渉」— しかし、コントロールしようとする思いがあなたを疲れ果てさせてしまうでしょう。明らかにこの三つの対応メカニズムは、あなたにもあなたのご主人にとってもよい結果を生みません。

あなたができること

1. 主にゆだねる

人を変えるのはいつも、御霊のなさるみわざです。あれこれと口出しする奥さんの努力によって良くなったというご主人に私は会ったことがありません。主にゆだねると、御霊が夫に働きかける環境が整い、また妻が自分自身の問題に向き合い癒されるための空間が生まれます。主にゆだねるということは、信頼することです。主が働いておられることを信じるということです。主にゆだねた妻は自分にこう問います。「自分が誰であり、自分のことをどう思うかを、私は夫の行動によって決めようと言うのか？」そしてこう答えます。「私の真のアイデンティティは、夫が私をどう扱うかより、主が私をどうお扱いになるかに基づいている。私の価値は、コンピューターに釘付けになった夫にではなく、十字架に釘付けにされた方によって決められるのだ。」

2. 恵みを知る

妻はキリストの目を通して夫を見ることを始めなくてはなりません。それは、恵みに満たされることを意味しますが、状況に左右されない、まさに超自然的な対

応とも言えます。恵みというのは、それを受けるに足りない人に対して、それを持って接するという事です。ヨハン・ゴースは次のように言っています。「もしあなたが人に接する時、その人の人格に相応した扱いで接するなら、彼はそれ以下の人間になる。しかし、それ以上の人間になれると信じ、もうすでになったと信じきってその人に接するなら、彼はそうであるべき人物になっていく。」あなたのご主人は、今は性的な問題で葛藤しているかもしれませんが、あの霊的な名著の一つである「告白」に自分の心の葛藤を記した聖アウグスティヌスや、または、性欲が原因で大問題を起こしたにもかかわらず、詩篇を書き上げ、神の心にかかった者と呼ばれたダビデ王のような、そのような品格を備えた人間になる可能性を持っているのです。

恵みに満たされると、妻は赦すことができます。彼女は自分が架けられている十字架の上からでさえ「父よ、夫をお赦してください。あの人は自分で何をしているのかわからないのです。」と言えるのです。この夫こそがまさに自分を苦しめている大もとであるかのように見えてもです。恵みに満たされている妻は、自分の夫は敵ではなく、実は神の望んでおられる真の一致から二人を切り離そうとしている本来の敵から害を受けた一人の被害者であるということを知るでしょう。しかし、毒が回ってしまっている妻は、本来の敵の企みをただ助長させる一方なのです。これらの企みを止めることができるのは、恵みだけです。ルイス・スミーズは次のように書いています。「恵みは癒しの始まりである。なぜなら、最も必要とされているものを与えるからである。その最も必要とされているものとは、受容である。受容される価値が有るか無いか問われることのない受容である。」

3. 祈る

これはもっぱら霊の戦いであるということを妻は決して忘れてはなりません。「祈り」というたくさんの大砲を要する戦いです。祈りは敵の足場をぶち壊し、失われていた領地を取り戻します。祈りの中で妻は癒しを体験します。主にゆだねる力も与えられます。また恵みを知るでしょう。祈りは基礎です。祈りは「これはもはや絶望的だ」という敵の欺きを吹き飛ばしてくれます。霊的な心理学者ジェラルド・メイによると、どんなに溺れてしまっても私達にはある程度の選択能力が残されており—これはつぶされることはない—常にある程度の自由が残されているのである、とのこと。あなたのご主人にこのような考え方と希望がもたらされるように祈りましょう。ご主人が戦い続けてくじけず、日々正しい選択をし、完全な武具を着けてしっかりと立っていられるように祈りましょう。

ご主人は事実否認というとても大きな壁を乗り越え、複雑にもつれあった恐れから信頼へと心を一新させ、骨の髄までしみ込んだ恥と傷の痛みをおさえ、自分のアイデンティティにおそらく幼少時代からまとわりついていたウソを切り捨てなくてはならないのです。これはまさに最大限の奇蹟を要します。その過程には時間がかかるかもしれませんが、絶えず祈り続けることが不可欠です。

どの道を選ぶか

これからの道、自分の力でうまくやっていけるだろうと思うことは間違いです。険しい道のりとなります。一人では決して歩けない道です。(でもあなたは一人ではありません。)そして、この道は、確かに歩む価値がある道であることを忘れてはなりません。他の道を選ぶ女性がいることを、ダイアン・ロバーツは次のように言っています。「夫を失うのを恐れて、面と立ち向うことをしない妻たちがいる。彼女らは事実否認という荒野に残り、夫の二重人生に沿って暮らしていく道を選ぶのである。自分自身の肉欲を正当化するのに夫の不義を利用する妻たちもいる。また、すぐに離婚した後再婚し、癒され変えられていく時間を取らなかったために、前いた荒野と似たような状況に陥ってしまう妻たちもいる。夫のセックス依存への対応というものは、私達の人生の中で最も困難な戦いの一つである。」

結婚、家庭、そして教会の将来は、クリスチャン女性の知恵に深く関わっています。それは、主を信じてゆだねることのできる女性、その人生が恵みのかおりを放ち、必要な時間を祈りに費やす女性です。今という時代、このような女性が必要とされているのです。彼女らは、トーマス・マートンが言った、「祈りと愛とは、実に、祈ることが不可能となり、心が凍りついてしまった時に学ばされるものである」ということを証明してくれる女性達なのです。